

## コロナウイルスをめぐるアジア地域の現状

関根瑠星 ([21911205rs@tama.ac.jp](mailto:21911205rs@tama.ac.jp))

萩原大輝 ([21911278dh@tama.ac.jp](mailto:21911278dh@tama.ac.jp))

山田祐輔 ([21911373yy@tama.ac.jp](mailto:21911373yy@tama.ac.jp))

私たち小林昭菜ホームゼミでは2020年度から世界全土で猛威を振るっている新型コロナウイルスの感染状況や対策について調査した。本報告ではアジア地域において新型コロナウイルス感染が確認された2020年3月15日から、2021年7月15日までの感染状況の推移と各国政府の対策、新型コロナウイルスワクチン輸入、摂取情報について報告する。今回調査した国はミャンマー、カザフスタン、カンボジアの三か国である。

本報告は、上記三か国の新型コロナウイルスの感染状況と対策、ワクチン接種状況、そして、ワクチン輸入について調査した。ミャンマーでは、クーデター後の混乱が続く中、医療機関が十分に機能しておらず、感染者や感染が疑われる人の多くが自宅での療養を余儀なくされている。カザフスタンでは、日ごとの感染者が5000人を超えており、政府は集団予防接種を進めると発表している。カンボジアでは、累計感染者は少ないものの、2021年3月以降から急速に感染が拡大しており、再びの都市封鎖の可能性が示唆されている。

加えて本報告では、コロナウイルスワクチンにも焦点を当てていく。各国のワクチン輸入先がどこであるかを調査することで、どの国の影響力が強いのか、どの国に依存した傾向があるのかを推測する。また、アジア地域における貧富の差によるワクチン接種の格差などを調査し、現在直面するアジア新興国の問題点を考察する。